

2. 事業効果の発現状況，目標値の達成状況					
Ⅰ 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		・ 近年の浸水被害により早急な対策が必要な河川など，優先度の高い箇所から早期完成を目指して整備を進めた結果，防護達成人口率が上昇した。 ・ 堤防高さの不足による高潮被害や護岸の老朽化による機能低下で早急な対策が必要な海岸について整備を進めた結果，防護達成人口率が上昇した。 ・ 近年の内水による浸水被害で早急に総合的な対策が必要となった新安川において，河川事業と下水事業とが連携して事業を進め，対策を完了した。 ・ 健全なダム機能を維持するため，特に堆砂量の多い棕梨ダムにおいて堆積土砂の撤去を開始し，ダムに堆積する量を減少させた。 ・ 排水機場の設置効果を最大限に発揮させ，また延命化を図るため，長寿命化計画を策定した。 ・ 瀬野川の高水敷を整備し，河川利用の促進を図るとともに，地震などの災害時の避難路としての機能を持たせた。			
Ⅱ 定量的指標の達成状況	指標①（洪水高潮防護達成人口率）	最終目標値	60.3%	目標値と実績値に差が出た要因	目標値を達成
		最終実績値	60.3%		
	指標②（海岸高潮防護達成人口率）	最終目標値	67.3%	目標値と実績値に差が出た要因	目標値を達成
		最終実績値	67.3%		
	指標③（新安川流域浸水被害解消家屋数）	最終目標値	1,296戸	目標値と実績値に差が出た要因	目標値を達成
		最終実績値	1,296戸		
	指標④（ダム堆積土砂量）	最終目標値	2,700m3／年	目標値と実績値に差が出た要因	堆積土砂の状況調査を行い，浚渫計画の総合検討を行ったことにより，堆砂ダムの建設を中止し，毎年浚渫を実施することとしたため。 今後も，堆積土砂の状況把握を行いながら，着実な浚渫を実施して行く。
		最終実績値	12,255m3／年		
	指標⑤（長寿命化計画策定箇所数）	最終目標値	9箇所	目標値と実績値に差が出た要因	目標値を達成
		最終実績値	9箇所		
	指標⑦（瀬野川高水敷利用可能人数）	最終目標値	1,050人	目標値と実績値に差が出た要因	目標値を達成
		最終実績値	1,050人		
Ⅲ 定量的指標以外の交付金対象事業の効果の発現状況（必要に応じて記述）					
3. 特記事項（今後の方針等）					
今後も総合的な浸水対策を継続して着実に実施することにより，水害に強い県土をつくるとともに，安全安心な県民生活の確保を図る。					